

緑化通信

2024 1月25日 (年6回25日発行) 第502号



発行所 一般社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階 TEL:(03)3586-7361 FAX:(03)3586-7577 URL:https://www.uekior.jp/ E-mail:honbu@uekior.jp 購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円



環境に配慮するため FSC®森林認証紙を使用しています。

新年のご挨拶



一般社団法人 日本植木協会 会長

佐久定規 (有千代田緑地・茨城県)

新年あけましておめでとうございます。 皆様、本協会を取り巻く環境として、植木需要の長期停滞や後継者不足、事業見直しによって会員数の減少が続いています。また、各種緑化資材や人件費等のコスト上昇によって、会員にとつて厳しい経営状況が継続しています。これに加えて令和6年度は、植木の長距離トラック輸送に支障が出るいわゆる物流2024年問題が表面化

また令和6年1月の能登半島地震により、被災された皆様ならびにそのご家族、関係者の皆様に対してお見舞い申し上げます。安全と被災地域の一日も早い復興をお祈り申し上げます。 2024年問題が表面化

新年のご挨拶 国土の緑化に向けて



林野庁 長官

青山豊久

新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。 一般社団法人日本植木協会及び会員の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。 また、令和6年能登半島地震により亡くなられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

林野庁では地震発生の御挨拶を申し上げます。 生直後から職員派遣や現地での被害状況調査を実施するなど、支援に取り組んでいくこととあり、被災地の一日も早い復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいります。

戦後我が国において造成してきた人工林の多くが利便性を迎えており、「伐つて使って、植えて、育てる」

し、どの程度の影響が発生するか懸念される点です。 このような諸事情を踏まえ、本協会は各委員会の統廃合や事業の見直し等により、経費の削減を図るとともに、会員数の増強や収益事業の強化を進め、いかなる環境でも健全な協会財政を維持することに真摯に取り組んでまいります。 また、昨年度、2027年国際園芸博覧会の植物調

達パートナーの認定団体に選ばれたことから、植物供給に責任を持って取り組んでまいります。2027年国際園芸博覧会は植木業界にとつても大きなチャンスであり、国際的な舞台で日本の植木文化を紹介し、世界に向けて我々の技術と知識をアピールできる絶好の機会です。

全国の植木供給可能調査についても着実に取り組んでいます。地球環境の変化により、植物の生育状況や供給においても新たな課題が生じています。我々は常に市場の動向を注視し、持続可能な供給体制の構築に努めるべきです。協会全体で、業界の健全な発展を見据え、持続可能な供給体制を確立していくことが求められています。

シモン、JAS構造材やCLT等の建築物への利用促進等に努めていくこととされています。また、近年、これまでになく豪雨等による災害が頻発化・激甚化しており、防災・減災、国土強靱化のための森林整備や治山事業を着実に実施していくことがより一層重要になっております。

昨年10月、社会問題化している花粉症について関係閣僚会議が開かれ、「花粉症対策初期集中対応パッケージ」が決定されました。花粉症の原因で、有病率が最も高いスギ花粉を減少させるため、発生源であるスギ人工林の面積を10年後に約2割減少させることを目指し、その伐採・植替え等

の加速化、スギ材需要の拡大、花粉の少ない苗木の生産拡大、林業の生産性向上及び労働力の確保等を集中的に実施することが必要とされました。これらの施策に必要な予算を令和5年度補正予算で新たに措置したところであり、花粉症対策を着実に進めてまいります。

特に、花粉の少ない苗木の生産拡大に向けては、採種園・採種圃の整備に対する定額支援、コンテナ苗の増産施設の整備について年間5万本以上増産する場合の補助率の2分の1から10分の6への引上げなど、支援の充実を図ったところであり、スギ人工林の植替え等に必要苗木を安定的に

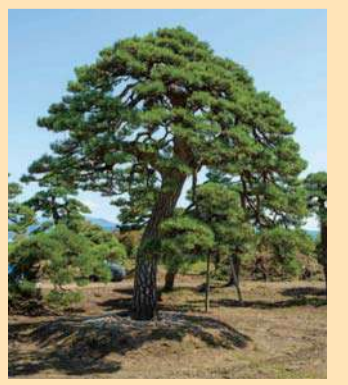
供給できるよう取り組んでまいります。 林野庁としては、これらの取組を通じて森林・林業・木材産業を持続的に発展させ、また、我が国に暮らすすべての皆様、林産物の供給、国土の保全、水源の涵養、二酸化炭素の吸収、生物多様性の保全など森林の多面的機能の恩恵を末永く享受できるように日々邁進していく所存です。本年も、国土緑化を担う貴協会の会員の皆様の御協力をお願いいたします。 結びに、本年が皆様一人ひとりにとって、実り多き素晴らしい一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

植物文化の発展、緑の豊かさの保護、そして未来への貢献を使命として掲げています。 皆様のご協力とご支援に心より感謝しながら、今後も一層の発展と繁栄を目指し、共に歩んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

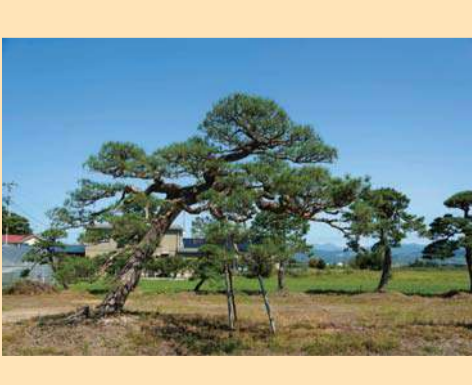
令和5年度「特別庭園樹木(名木)」を認定

北日本管与(株) 菅原勝利(青森県平川市) 2本、(秋田県横手市) 1本

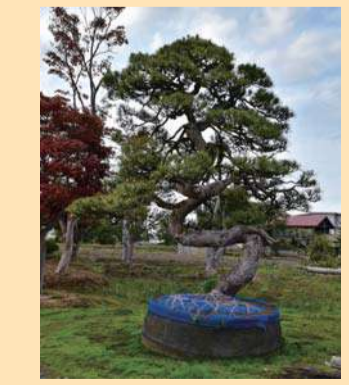
名木認定制度は、最高の技術と長い年月によって育成され芸術的風格を備えた庭園樹木(造形仕立て物及び自然型仕立物)を「名木」と認定し、その価値を称賞するとともに、生産技術の継承、生産意欲の振興を図り、ひいては需要の喚起により業界発展に寄与することを目的としています。名木の対象樹種は、本会会員の所有する中・高木で、販売の意思があり、運搬可能であるものです。 令和5年度は、北海道・東北ブロックを対象に募集を行ったところ応募があり、一次書類審査をすべてが通過し、現地へ赴き2次審査を行い、申請樹木のうち「品位、風格を有し、社会的希少価値が極めて高いもの」として3本が認定されました。



①クロマツ 樹形 自然形 樹高7.21m 幹周1.43m 枝張6.50m 樹齢400年 認定番号230501



②アカマツ 樹形 斜幹形 樹高5.84m 幹周1.28m 枝張7.00m 樹齢250年 認定番号230502



③クロマツ 樹形 曲幹仕立 樹高5.71m 幹周0.98m 枝張4.00m 樹齢180年 認定番号230503

令和6年度 理事会等会議日程

Table with 2 columns: Meeting Name and Scheduled Date. Includes items like Board Meeting, General Meeting, and Business Executive Meeting.

新年のご挨拶

国土交通省 大臣官房審議官



令和6年の年頭にあたり、謹んで新年のお祝いを申し上げます。

新年早々発生した能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。国土交通省としても被災地の復興・復興に全力を挙げて対応して参ります。

一般社団法人日本植木協会並びに会員の皆様におかれましては、平素より公

園・緑化関連行政にご支援、ご協力を賜っていることと、厚く御礼申し上げます。

勝 又 正 秀

Beingの取り組みも浸透してきています。

昨年7月のG7香川・高松都市大臣会合では、これらの諸課題の解決に向けて、都市の緑地の重要性について、欧米諸国と認識を共有しコミュニケーションが盛んに行われました。このような背景を踏まえ、国土交通省で国際的枠組みを進める流れが加速しています。また、人々が経済的・社会的にも健康な状態を指す Well-being への取り組みも浸透してきています。

昨年7月のG7香川・高松都市大臣会合では、これらの諸課題の解決に向けて、都市の緑地の重要性について、欧米諸国と認識を共有しコミュニケーションが盛んに行われました。このような背景を踏まえ、国土交通省で国際的枠組みを進める流れが加速しています。また、人々が経済的・社会的にも健康な状態を指す Well-being への取り組みも浸透してきています。

今年から、会場整備が本格化する予定であり、本博覧会の成功に向けた準備により一層取り組んでまいりますので、博覧会への提案等を含め、ご協力を頂きますようお願いいたします。

また、全国都市緑化かわさきフェア「Green For All KAWASAKI 2024」は、会期を秋と春の2期に分けて計53日間開催されます。川崎市制100周年を迎える次の100年に向けて、次世代に向けて考え行動すること、誰もが暮らしやすく住み続けたいまちへとつながっていくことを目指して、富士見公園・等々力緑地・生田緑地の3公園をメイン会場として開催されます。

加えて、ことも大綱に基づき、全体的にも、若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることが出来る「こともまんなか社会」の実現に向けて、ご自身の近隣地域の生活空間を形成する「こともまんなかまちづくり」を加速化し、ご自身の遊び場とそのアクセスの確保や地域住民等との交流機会を生み出す空間の創出を推進します。樹々の緑あふれる都市公園が、身近な遊び場の確保に貢献できるよう、施策の展開に努めます。

このように緑豊かなまちづくりに向けた施策展開が、貴協会の益々の充実・発展に寄与していくことを期待するとともに、会員各位の益々のご健康を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

ネイチャーポジティブの実現に向けて

環境省 自然環境局長



令和6年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。能登半島地震で被災された方々心よりお見舞い申し上げます。一般社団法人日本植木協会及び会員の皆様におかれましては、平素より、自然を中心とする環境行政の推進にご理解、ご協力頂き、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年度は、「ネイチャーポジティブ元年」と言える年でした。

2022年12月に生物多様性条約第15回締約国会議(CBD-COP15)で世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されたことも踏まえ、我が国では「生物多様性国家戦略2022-2030」

を昨年3月に策定し、2030年までに生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる、いわゆるネイチャーポジティブ(自然再生)の表現に向けて動き出しました。

この勢いを更に加速させるために、本年は、生物多様性の維持に加えて、回復及び創出も対象にした、民間等の自主的な活動を促進

する。環境省では民間等の取り組みによって生物多様性が保全されている場所を「自然共生サイト」として認定する仕組みを昨年4月から開始しました。企業を中心とした関連するインセンティブの検討も進めてまいります。さらに、生物多様性の保全上効果的な場所や、各者の活動状況等が可視化できるような、生物多様性を見える化するシステムの開発を進めてまいります。

その他、ネイチャーポジティブに向けた取組は、企業にとっても、新たな成長につながることを示し、その実践を促すものとして、ネイチャーポジティブの実現に資する経済への移行に向けた戦略の策定等も進めてまいります。

貴協会のこれまでの取組、また新たな取組が、こうした民間等の自主的な活動の後押しになることを願っております。また、健全な生態系への回復を目指す観点からも、地球規模での気候変動対策の上でも、今後、貴協会の役割は更に重要になっていくと考えております。今後とも緑化等を通じた環境保全活動の一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会及び会員の皆様方の益々のご活躍とご発展を祈念いたしまして、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

青年部会 令和5年度全国研修会報告書

田 宮 慎 二 (南田宮園芸・鳥取県)

令和5年9月14日(木)に東京都の国立競技場、東京リンピックに合わせて再開の植栽見学に95名が参加しました。5月にコロナも5類に移行され、東京2020

まずは国立競技場と周辺の植栽見学は、東京オリンピック・パラリンピックのメイン会場は隈研吾によるデザインで、周辺との調和を目指した「杜のスタジアム」のコンセプトを掲げ「自然に開かれた日本らしいスタジアム」を提案されていた。集合写真を撮った後、各自で競技場周辺の植栽の見学をしました。大勢の方が5階の「空の杜」の通路沿いの植栽スポットを見学しました。その後、バスガイドさんに迎賓館・レインボーブリッジ・東京ゲートブリッジ・豊洲・選手村跡地など様々な場所を説明して頂きながら植栽見学しました。



空の杜の通路沿いの植栽見学(国立競技場)

植栽が多い国立競技場にて集合写真

東京は緑が多く、斬新な植栽を見ることが出来、勉強になりました。



夢の島熱帯植物館

最後は、屋形船で懇親会が開催されました。1台の船で100名全員が座れ、ビューポイントでは開放感溢れる大きな窓や屋上デッキから東京の夜景を楽しみながら交流を深めることが出来ました。

このように、コロナ禍後の初めの研修に多くの会員が参加してくれ、初めから楽しかった。懇親会では屋形船という限られた空間で、夜景を見ながら会話が弾みました。次回は、地方での開催も検討していきたいです。



屋形船での懇親会の様子

このように、コロナ禍後の初めの研修に多くの会員が参加してくれ、初めから楽しかった。懇親会では屋形船という限られた空間で、夜景を見ながら会話が弾みました。次回は、地方での開催も検討していきたいです。

年頭の辞

植木の新たな需要開拓に向けて



農林水産省 農産局長

平形 雄策

新春を迎えるに当たり、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

初めに、本年1月1日に発生しました能登半島地震により、お亡くなりになられた方々にお悔やみ申し上げるとともに、被害に遭われた全ての方々に心よりお見舞い申し上げます。

日本植木協会及び会員の皆様におかれましては、植木の生産技術の向上及び緑化推進活動の普及啓発等を通じ、安定的な花き生産及び花き文化の振興にご貢献いただき、心より感謝申し上げます。

一昨年以来、サプライチェーンの混乱による石油価格と取り組んでいる輸出拡大に向けて効果的にご活用

また、国内市場についていえば、3年後には、いよいよ

SDGsが社会全体の課題として取り組まれていま

ものが求められており、その重要性はますます高まっています。

もある中で、市場拡大に向けた取組が一歩ずつ進んでいると思っております。

特に、昨年10月からカタール国で、2023年ド

よ横浜市で「GREEN X EXPO2027」が開催

一つです。また、本年3月には博覧会の出展に関する募集が開始される予定であると聞いております。

新年のご挨拶

環境緑化のさらなる推進に向けて



一般財団法人 日本緑化センター 会長

加来 正年

新年明けましておめでとうございます。一般社団法人日本植木協会会員の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様にご心よりお見舞いを申し上げます。

昨年、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことから、引き続き感染症対策を実施しつつも、通常の経済活動が再開されました。

また、工場緑化全国大会は、関係者の皆様方のご理解・ご協力により、今年も昨年引き続き1月に開催

SDGsが社会全体の課題として取り組まれていま

ものが求められており、その重要性はますます高まっています。

新年明けましておめでとうございます。一般社団法人日本植木協会会員の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様にご心よりお見舞いを申し上げます。

昨年、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことから、引き続き感染症対策を実施しつつも、通常の経済活動が再開されました。

また、工場緑化全国大会は、関係者の皆様方のご理解・ご協力により、今年も昨年引き続き1月に開催

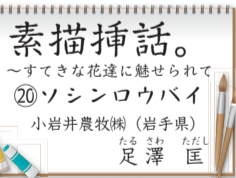
SDGsが社会全体の課題として取り組まれていま

ものが求められており、その重要性はますます高まっています。



青年部会総会

開催日 令和6年2月8日(木)
会場 オリエンタルホテル福岡博多ステーション



「ロウバイ Chimonanthus praecox」は、中国原産の落葉中低木で、強い芳香がある花を冬に咲かせてくれます。

「冬(chemon)」+「花(anthos)」が語源だそうです。種名の「praecox」は、「早咲き」の意味があります。

このスケッチは、「ソシンロウバイ C. praecox f. concolor」です。ロウバイは花の中心部にある花被片が暗紫色に染まっているのですが、ソシンロウバイは花全体の花被片が黄色一色になっています。

は、「早咲き」の意味があります。確かに、ロウバイは1~2月に花を咲かせるので、このような学名が宛がわれたのだと思います。

このスケッチは、「ソシンロウバイ C. praecox f. concolor」です。ロウバイは花の中心部にある花被片が暗紫色に染まっているのですが、ソシンロウバイは花全体の花被片が黄色一色になっています。

（一社）日本植木協会 令和六年度通常総会 歓迎 新年のご挨拶・中国・四国ブロック

中国・四国ブロック長

内山 淳

(株)山都屋(岡山県)

新年あけましておめでとうございます。本年が（一社）日本植木協会会員の皆様にとって、飛躍の年になりますようご祈念申し上げます。

本年1月25日広島市において（一社）日本植木協会令和六年度通常総会が開催されます。昨年5月にG7サミットが開催された広島は、緑豊かな中国山地と、静かで波平らかな瀬戸内海



令和六年度通常総会

園の会員が植木の生産・流通販売などにたずさわっています。年々会員が減少する中、ブロック会議や総会後に交流会を開いて懇親をはかりながら細々とブロック活動をしています。また、本総会の記念講演では2017年にオーストラリアから広島に巨大なバオバブの移植プロジェクトを手掛けられるなどグローバルにご活躍されている四代目金岡又右衛門氏による講演も予定されています。

広島県支部長

倉本 政信

(株)柏松園

新年あけましておめでとうございます。私たちも新たな一年を迎えることができ、心より感謝申し上げます。いつもはチャットGPに文章を考えてもらっていますが、この度は自分の力で書かせていただきます。

先日12月中旬に、弊社園場にてハウスメーカーのデザイナーを対象に「植栽材料選定についてのポイント」をテーマとした樹木の勉強会を開催しました（参加人数は30名）。参加者の話を聞く所によると、デザイナーは平面図の上に樹木配置の○を書くのは得意だけれど、実際にどの樹木を選んだら良いのか分からない

が吹いていると思います。

中国・四国ブロックは、交流会や研修会・イベントの提供、情報提供・情報発信、行政・地域への提言など積極的に実施して各方面に植木の魅力を伝えていきたいと考えています。そのためにも会員の知識や技能の向上に努めてまいります。

今後の中国・四国ブロックの活動にご理解いただき、結びとなりましたが皆様ご家族様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

提案すると、始めは流行りのアオダモを求めているも、結局は皆さんが本当に求めている木はアオダモでなくても良かったのです。

この勉強会を通じて、お客様が持つイメージをしっかりと聞き取り、本当に求めている植木を提供することの大切さを再認識する機会となりました。

最後になりますが、日本植木協会と会員皆様の輝かしい未来とご多幸を心よりお祈り申し上げます。共に実りの多い一年にしましょう！

こちらへの質問についても「建物の壁際に植えることが多いので根鉢の小さい植木を教えてください」「坪庭に植える樹木のオアシスは？」「傾けて植えたいが不自然に感じるのをどうしたらよいか」など求めているものはそれぞれ違うものです。植栽の位置やイメージを細かく聞き取り用途や特性に合わせた植木を

鳥取県支部長

田宮 慎一

(有)田宮園芸

新年あけましておめでとうございます。

約3年間にも及ぶコロナ禍を経てようやく明るい兆しが見えて参りました。明るい話題の一方で昨秋から導入されたインボイス制度や、物価高による資材等の高騰など頭の痛い問題も多く、造園業界や弊社のような樹木生産・卸業界にも暗い影を落としております。

相変わらず公共工事等は減少傾向ですが、ここ数年は、個人邸での需要が増えています。コロナ禍での外出制限の中、家で過ごす時間が多くなり、そこに癒しと安らぎが求められているのではないのでしょうか。人々の暮らしをより一層豊かなものにする為に、庭、その空間を彩る植物たちが重要な役割を



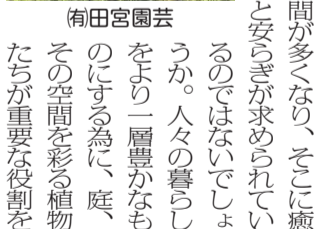
(株)渡辺造園



倉見苗圃



(有)竹本園



(有)田宮園芸

す。日本植木協会によって全国に広がる仲間たちと出会うことに感謝し、これからも共に頑張りたいと考えております。

最後になりますが、協会員の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

状況が続いています。この難局を克服すべく、我々は情報を集め、試行錯誤を重ねています。田舎に住む者として情報収集が難しい中、植木協会で知り合った仲間が絶えず情報を共有してくれているおかげで、困難に立ち向かう力をいただいております。



果たす事は間違いないでしょう。

顧客のニーズも時代により変化致しますが、今後も日本植木協会の皆様の益々のご発展をお祈りいたします。本年も宜しく願い致します。

徳島県支部長

高橋 誠

(株)高橋魁春園

新年あけましておめでとうございます。本年が植木協会の皆様にとって良い年でありますように。



(有)浅中錦松園

支部活動を報告したい所ですが、徳島県の協会員は今年度から当社だけに

新たな行動出来る様になりましたが、今の世界的な物価高の流れは我々の業界、また徳島においてもかなり影響が出てきています。戸建ての販売価格が、約3〜4割ほど上昇しているのが現状で着工件数も減少傾向で、公共工事においても管理はありますが、樹木を植える仕事は皆無です。そんな逆境ではありますが、徳島という温暖な気候

島根県支部長

櫻井 太

(有)櫻井エンタープライズ

新年明けましておめでとうございます。島根県支部長の櫻井でございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

徐々に収束傾向にあり、活動がしやすくなってきましたが、依然として物流費や資材費の高騰が続く厳しい状況が続いています。

この難局を克服すべく、我々は情報を集め、試行錯誤を重ねています。田舎に住む者として情報収集が難しい中、植木協会で知り合った仲間が絶えず情報を共有してくれているおかげで、困難に立ち向かう力をいただいております。



閉塞感でいっぱいだった頃、我々の業界もその影響を受けだしてしま...

愛媛県支部長

丹下 貴啓

(株)瀬戸内園芸センター

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いいたします。

このようなコロナ禍であつた中で、弊社においては、既存事業を継続して...

可能性が高く、また企業体力がある今こそ、新規事業を打ち出して既存事業との相乗効果を図り、収益の増加を追求しなければなら...



愛媛県の支部メンバーは、現在(株)大西屋様、(有)山緑化センター様、弊社の3社となっております。



OLIEFCAFE



今後、瀬戸内海しまなみ地域と共に発展できるような事業展開を行いたいと考えております。

高知県支部長

恒石 昌夫

(株)岡宗農園

新年あけましておめでとうございます。本年がますますよい祈念申し上げます。



島井植物センター

さて、昨年は高知県出身の植物学者、牧野富太郎博士をモデルにした小説「らんまん」が放送されまし...

たこともあり、県内外から多くの観光客が訪れ、牧野植物園や北川村のモネの庭など、県内各地の観光地は大変賑やかになりました。



(株)岡宗農園

各地で開催された総会・研修会

北海道・東北ブロック

令和5年度通常総会と研修会

(旧)ブロック長 安瀬 信一

(有)舟引植産・福島県



ブロック総会風景



母畑温泉八幡屋 渡辺社長

報告事項の中で真鍋理事より協会の現状、今後の方針と協会の財務状況の報告を受け、役員より建設的関連な意見の交換やアドバイスが...



(有)仲田種苗園視察研修

理事に理事会での質疑を託して意見交換ができました。2部では講演会とパネルディスカッションが開催されました。

関東・甲信越ブロック

令和5年度関東甲信越ブロック総会

ブロック長 城 処 章

(有)大門植産園・埼玉県

本年度のブロック総会は、10月24日(火)栃木県宇都宮市のホテルマイステイズ宇都宮にて、ブロック会員69名が出席して開催された。



防衛大学校名誉教授 渡邊啓二氏



講演会場

新ブロック長に城処章、副ブロック長に神奈川県支部の飯島裕之と群馬県支部の滝沢政己が選出された。

代表者変更 (新)永井 慎隆 (旧)永井 康之 (有)永緑園(愛知県)

担当者変更 (新)川村 和泉 (旧)田村 政則 (有)田村山林緑化農園(秋田県)

住所変更 (新)水間緑販 〒893-1103 鹿児島県鹿屋市吾平町麓3563-1

退会 (有)桜木園(埼玉県) (有)大宮造園企画(千葉県) (有)伊藤植木園(愛知県) (有)大西農園種苗場(和歌山県)

訃報 (永)永井 金美 様 (永)永井康之氏のご母堂様 (有)永緑園(愛知県) 令和5年10月27日 享年92歳

会員動向

新入会正会員 (新)そよかぜグリーン(株) 山崎 隆弘 〒278-0012 千葉県野田市瀬戸1074 電話 0471-38-6740 FAX 0471-38-6745

新入会賛助会員 (株)サンホープ 益満 ひろみ 〒153-0061 東京都目黒区 中目黒1-1-71 KN代官山4F 電話 03-3710-5675 FAX 03-3791-7119

代表者・メールアドレス変更 (新)大久保吉広 (旧)大久保利一 info@garden-s.co.jp (有)猿島ガーデン(茨城県)

中部ブロック

令和6年度通常総会開催

ブロック長 赤塚 正基
(赤塚花木園・三重県)



小畑ブロック長(旧)



中部ブロック研修会報告

(旧)ブロック長 小畑 勝裕
(有)仲松園・静岡県

本年度のブロック研修会は、研修会の起点をJR東は、令和5年6月6日(火)7日(水)さいたま市において視察研修会を開催しました。今回の研修会は、埼玉県支部の企画から協力していただき実現しました。内容は最初に埼玉スタジアムを訪れ、施設内部の詳細な説明を聞きながら、特別にVIP席や控室なども見ることができました。当初は盆栽美術館の視察を予定していましたが、臨時休館日となり急遽埼玉支部会員の尽力で視察が実現できました。



集合写真

その後、染谷花菖蒲園を訪れ、続いて染谷植物園さんの圃場視察を行い、初日の予定は終了しました。夜は大宮駅近くの飲食店にて、埼玉県支部より3名をお招きして中部ブロック会員の交流会を行い活発な情報交換の場となりました。2日目も好天に恵まれ、バスでさいたま市見沼区方面に向かいました。住宅地と農地が混在する静かな環境で大都市の喧騒を離れて落ち着いた雰囲気です。グリーンファーム・アンドウさんとグリーンシクラさんの圃場を視察しました。二日間の短い時間でしたが訪れた圃場はどれもきれ

関西ブロック

令和5年度関西ブロック通常総会

ブロック長 中西 誠
(株)中西園材・滋賀県

定数会員65名出席者38名委任状27名合計65名。総会は成立となり、審議事項として、第1号議案令和5年度事業報告、第2号議案令和5年度収支決算報告及び監査報告、第3号議案令和6年度7年度役員(案)、第4号議案令和6年度事業計画(案)、第5号議案令和6年度収支予算(案)が上程され、すべて満場一致で承認されました。その後、報告事項の説明があり、全国総会の案内後閉会となりました。

11月28日にガーデンシティークラブ大阪で17名の出席者のものを行いました。主な議題として役員候補者の選出を幅広く会員から選出することができるよう規約改定(案)について提議しました。会員数の減少に伴い役員数を減少したことと、同じ役員が複数の職務を兼務するケースが増え、従来規約ではわづ

かな現役員の中からしか選出できず候補者不足の状態に陥ってしまったためです。この議案は審議の上可決されました。来賓として有村治子参議院議員秘書の鶴田様にお越し頂きました。また、講演会には、近畿

大学の田中尚道教授をお招きし、ポリエステル媒地についてのご講演を頂きました。「ポリエステル媒地」とは衣料品などリサイクル繊維を用いた超軽量人工媒地であり、これを用いて様々な作物を育てることができるといふものでした。屋上緑化の植物栽培基盤として実績も多数あり、無菌であることから今後は植物の輸出や宇宙での植物栽培の可能性など、非常に夢のあるご講演を頂きました。最後になりましたが、協

会本部ならびに全国の協会員の皆様今後ともよろしくお願いたします。関西ブロック内圃場視察 (大阪方面) 令和5年8月3日大阪方面視察にて杉田園さん、古川庭園さんの視察を実施しました。杉田園さんでは非常に多くの種類の樹木を栽培されており、また、除草・消毒等の管理を徹底されておりました。古川庭園さんでは雑木はもちろんのこと、聞いたこともないような新しい樹木の取り扱

に積極的に挑戦されておりました。2社園とも土地の特性をうまく活用され、事業展開をされていたのが印象的でした。真鍋庭園苗畑

真鍋庭園の歴史について教えていただきました。真鍋社長有難うございました。2日目は小樽泊。3日目は、北海道大学植物園の視察を行いました。札幌市内にある広大な敷地の植物園を視察しました。ES CON FIELD HOKKAIDOを視察の後、千歳空港から大阪へ飛び関西ブロック北海道研修会は、充実した内容で終了しました。

植物園の視察を行いました。札幌市内にある広大な敷地の植物園を視察しました。ES CON FIELD HOKKAIDOを視察の後、千歳空港から大阪へ飛び関西ブロック北海道研修会は、充実した内容で終了しました。



ES CON FIELD HOKKAIDO



古川庭園様圃場



杉田園様圃場



真鍋庭園苗畑



北海道大学植物園

中国・四国ブロック

令和5年度通常総会

ブロック長 内山 淳
(株)山都屋・岡山県

令和5年11月14日午後2時より広島市「ホテルメルパルク広島」において中国・四国ブロック通常総会を開催しました。第1号議案では、令和5年度事業報告、決算報告の説明、その後監査報告、第2号議案では、令和6年度事業計画案、出席の計18名にて開催いたしました。同会場は、令和6年度通常総会と同じ場所です。半田茂富副ブロック長の挨拶の後、内山ブロック長の挨拶の後、鵜飼副会長は役員会に一任すること

と、次回ブロック総会は四国で実施することで承認されました。その後、田宮横二会員より青年部会のブロック体制の見直しについて報告があり、青年部会に入会する会員が少なく、会員が減少している現状について協会の今後を心配する意見がありました。

午後3時半より広島市植物園の堀川大輔技師をお迎えして「バオバブの管理について」の講演をしていただきました。同公園には、令和6年度通常総会の講演会で講師をお願いしている植物活動家の四代目金岡又右衛門氏がオーストラリアからの移植を総合プロ

デユースした日本最大のバオバブがあります。会場を同ホテルの隣の部屋に移して午後5時半より懇親会を開催しました。大村秀樹会員の司会により内山ブロック長の開会挨拶にはじめ、協会本部ならびに全国の協会員の皆様、今後ともよろしくお願いたします。

する通常総会に全国からたくさんの方をお招きできようみなで協力して準備していきたいと思っております。今回お世話になった中国・四国ブロックの会員をはじめ、協会本部ならびに全国の協会員の皆様、今後ともよろしくお願いたします。



通常総会で内山ブロック長挨拶



広島市植物公園 堀川大輔技師による講演

会の下見を兼ねて立食形式で行いましたが、久しぶりに会って話が弾み楽しい時間もあったという間に過ぎ、倉本政信会長の閉会挨拶で懇親会は中締めとなりました。最後に中国・四国ブロックは現在会員数が25名となっていますが、令和6年1月に広島で開催



懇親会の様子

ルポ

社園さん紹介

(有)田村山林緑化農園

No.20

秋田県(山本郡)

山林苗(スギ・クロマツ等と広葉樹)とグラウンドカバー苗の2本柱で生産して、今年2月で設立30周年。山林苗は全て実生で地域や環境に合ったものを生産。社長の田村政則さんが山林苗、協会担当の川村和泉さんはグラウンドカバーを主に担当しています。そして、現場を「見て感じる事が大切」という田村さんの「思い」から、従業員さんを積極的に研修に送り続けています。



田村山林緑化農園の皆さん



左から協会担当の川村和泉さん、社長の田村政則さん



最近植物の種類が増え、冬場ハウスに入れた方がよい植物もあるので棚を新設。



露地モノのクロマツ苗木畑



綺麗に整備されたコンテナ圃場

会社の設立当初からコンテナ苗を生産する経緯は?

田村さん:「山林苗生産としては45年程ですが、法人にしてからは今年2月で30年です。山林苗だけの生産に迷いを感じていた時期に、研修でグラウンドカバーの生産者を訪問したことがきっかけで、うちも作ってみようと思えました。緑化ブームの流れによって生産量が増えて、その頃に植木協会に入会しました。いつの間にかコンテナ苗が200種以上、ハウスが23棟、従業員さんが30人程となりました。」

研修がきっかけでグラウンドカバーを作り始めたのですか?

田村さん:「はい、研修はとでも勉強になります。受け入れ側は大変だと思いますが、参加者側はきれいな圃場を見て刺激になり、「うちもコレやってみよう」と自社で試します。実際、東北地方は寒い気候でグラウンドカバーの産地ではないですが、それでも試行錯誤して現在に至っています。また研修以外にも自ら出歩いていると、見て感じて「感」が働いて「これ作ろう!」と思うものです。」

川村さん:「うちの社長は流行るかなと思うとすぐに作り出すタイプなんです(笑)。でもなかなか引き合いがなくて生産を止めようかと思う頃に、流行り出して引き合いになることが多々ありました」…リサーチ力がすごいんですね。

売れ筋を見抜く力はどうやって?

田村さん:「それは難しいです。自社の製品数が少ないと流通量から分析は出来ないし、皆さんとコミュニケーションを取らないと分からない部分も多くあります。受け手側になってしまうと分かりません。だから研修に参加するということは、とても貴重なことなのです。今まで私は沢山研修で勉強させていただきましたから、個人的には協会に恩があると思っています。」

冬は厳しいから、冬前にハウスにコンテナ苗を移動させるのですか?

川村さん:「もともと耐寒性の植物しか作っていないので、基本的には屋外に置いています。雪の下だから休眠状態です。注文がきたら「ここ掘れわんわん」とばかりに掘っています。みんなで雪一面の圃場に向かって「この辺だったかな?」と、限界はありますが掘っています(笑)。雪の降らない地域の方からは「よく掘るな」と言われますが、私たちには当たり前のことなんです。雪が降る前にどの辺に何の植物があったかと各圃場ごとに在庫場所の地図を描いておきます。ですから冬場の男性陣9人の仕事は、まずは除雪作業です(笑)。」



スギ苗の上まますます積もるようです(R5年12月現在)

雪の中の作業は大変ですね。

川村さん:「はい、私達は寒さや雪には慣れていますが、今年の夏のような36度以上の猛暑が2週間続いた方がキツかったです。関東地方と変わらずに暑くて、ハウス内の作業は、体が慣れてないので本当に大変でした。冬は寒いけど夏は涼しいという秋田の良さがなくなってしまいます。」

今後の方針等は?

田村さん:「今後も今と変わらず、山林苗とグラウンドカバー苗の2本立てを続けていきたいです。やっとならグラウンドカバーでもそれなりに知名度も出てきましたし、例えどちらかが衰退しても食べていけるよう継続して行きます。あとは、大げさに人材育成という訳ではないですが、若い人にも研修に参加してもらっているので、そういう面も続けていきたいです。」

若い従業員さんの募集はどうですか?

川村さん:「有難く、最近は高校の研修で来て、そのまま入社して長く勤めてくれています。うちの受け入れ体制もやっとなら変わってきたのかなと思います。このまま定着して欲しいです」…事務所も綺麗ですし若手の活気あるのもいい効果なのだと感じました。

山林苗の生産量も多いですね。

川村さん:「はい。秋田県は国有林が多く、民有林、個人所有の山もありますが、国有林スギ人口林の面積が全国1位です。国策で50年前にスギ苗を全国的に植林したので、当時植林した杉を伐採する次期は現在がピークです。ですから、今は伐採後に新たに植林するスギ苗の需要が多く、何年先にどれだけ必要になるか需要と予算がある程度予測出来るので、それに合わせて全て実生からスギ苗を作っています。最近は国が推奨している少花粉スギ苗の需要も増えてきました。」



出荷前の大量のスギ苗 12月の圃場(左写真と同じ場所)

若手従業員さんにお聞きしました。



左から山田誠也さん、小林真人さん(後日、リモートでインタビュー)

小林さんは、直近でコンテナ部会の研修に2年間行かれたそうですね。

小林さん:「はい。北海道の研修では、先が見えないほどのカラマツ苗木畑を見て圧倒されました。作業内容や仕事のやり方を研修に、自社との違いに気づかされたのは大きかったです。自社で取り入れられる部分は参考にしたいです。また、夜は一緒に飲んで交流が深まりました(笑)。研修に行けてよかったです。」

若いお二人から会社のいい所を教えてください。

小林さん:「それはダイレクトに社長や上司に声を挙げられることです! “こうしたい”とか、“どうしたらいいか?”と直接言うって話合っってすぐに解決に繋がります」と、即答で会社のいい所を答えてくれました。

今はどんな作業をしているのですか?(11月取材時)

山田さん:「これは秋田県の太平山等に植樹する苗木を選別しています。山ではこの白い袋を背負って、苗木をそのまま土の穴に植樹しますから、根が崩れていると地面の穴に入れにくいので、ポットに根がきちんと張っている苗木を選別して出荷準備をしています。」



根がしっかりと張っている少花粉スギ苗



“お米を抱えているのと同じよ!”と、笑わせてくれた女性の従業員さんたち。



根が詰まっている苗の株分け作業中。「坂本さん(左から3人目)は手先が器用で上手なんです(笑)」ベテラン組と若手組が和やかに作業している風景が印象的でした。

こちらに就職したきっかけは?

北林さん:「事務をしている叔母に誘われたのがきっかけで、入社14年程になります。パソコン作業より出荷作業が思った以上に私に向いているように思いました。会社の居心地もとても良いですし、年配の方々にはよく面倒を見てもらっています。」

どんな仕事をしているのですか?

北林さん:「現場と上司の川村の中継役で、出荷の準備や箱詰めと各圃場毎の出荷数の確認などを行っています。多い時は一日に何千もの出荷があるので、運送会社で一度に搬送できない場合は小分けにします。植物の種類も多いですし規格もあるので細かく川村に聞いて貰えました」…普段は甘いものや美味しいものを食べに行くことが好きだそうです。楽しく頑張ってください。」



17時になると皆さんが戻るきれいなオフィス